6 自転車の逆走防止効果を高める「さかさ絵」のサイン

サインデザイン

立命館大学総合心理学部の北岡明佳教授を中心とした研究グループは、2015年7月から2016年3月にかけて、「さかさ絵」を活用して自転車の逆走防止効果を高める研究を実施した。

これは京都市自転車政策推進室の依頼で、大学コンソーシアム京都が募集し、北岡教授らが応募、採用されたもの。大学コンソーシアム京都は、京都の大学間連携を推進する公益財団法人で、京都の国公私立大学約50校で構成される。

2015年6月の道路交通法改正により、自転車は走行が認められている歩道を除けば、自動車と同じ車道左側を走らなければならないことになった。しかし、車道右側を逆走し、自動車と正面衝突しかねない危険走行をする自転車が少なくない。そのため多くの自治体では、車道内に自転車走行レーンを設け、その上に走行方向を示す矢印やピクトグラムを描くなどして正しい走行の喚起に努めている。

北岡教授らは、自転車に乗る人自身が逆走していないかどうかをすぐに分かるデザインとして、知覚心理学の見地から、さかさ絵に注目。自らさかさ絵のピクトグラムを作画したほか、さかさ絵作家の伊藤文人氏にも製作を依頼した。

デザインはいずれも正しい方向に走っていれば「にっこりマーク」や「自転車マーク」に見えるが、逆走すると「困り顔」や「ビックリ顔」「怒り顔」に見える。自転車に乗っている人は、間違いにすぐ気付くというアイデアだ。

2016年2月に簡易的な生理実験を行ったところ、予想に反して、さかさ絵を見たとき、ぎょっとしたのか心拍数が増加した事例が2回得られた。北岡教授は「正式に採用する場合は、本格的な生理データを採って安全性を確認することが望ましい」と語る。

ただ、正式採用についてはまだ流動的だ。京都市の担当者は観光名所にもなり得るとして試験的にでも敷設したいと考えているようだが、導入には道路を管理する京都府警の許可を得なければならないからだ。このままお蔵入りさせるには残念な、アイデアあふれるデザインだ。

（原 武雄／ライター）

北岡教授が作成したさかさ絵ピクトグラム。左が正しく走っている時の見え方、右は逆走時の見え方

さかさ絵作家・伊藤文人氏が製作したさかさ絵。左が正しく走っている時の見え方、右は逆走時の見え方

日経デザイン 2016年5月24日発行（毎月24日発行） 第348号 1987年8月18日第三種郵便物認可

NIKKEI DESIGN

特集

デザインの値段
デザイナーの価値

June 2016 6